

写真で見る菊苗の植付け方

◆用意するもの(1鉢分)

- ① 5号鉢(直径15cm)
- ② 赤玉土 大粒(ひとつかみ程度)
- ③ 腐葉土(約0.8~1リットル)
- ④ 赤玉土 中粒(約0.3ℓ~0.4ℓ)
- ⑤ 乾燥肥料(10g・約大さじ2杯)
- ⑥ 鉢底ネット(素焼き鉢の場合)

◆植付け 8月23日頃

①



★素焼き鉢の場合はまず、鉢底ネットを底穴が隠れるように敷きます。

②



ここから、素焼き鉢・プラスチック鉢共通

★赤玉土(大粒)を鉢底が隠れる程度に入れます。

③



★新しく用意した、腐葉土と赤玉土(中粒)を7:3の割合でよく混ぜておきます。

重要!

※赤玉土(中粒)を入れないと、水はけが悪くなり、根腐れを起こしやすく栽培初期で枯れる事があります。

④



★③で作った用土を、鉢の1/3～半分程度まで入れます。
(苗の長さなどの状態によって調整)

⑤



★乾燥肥料10g(約大さじ2杯)または、固形肥料15g(約30粒)を入れます。※写真は乾燥肥料を使用

⑥



★肥料の上から鉢の半分～2/3程度まで用土を足します。

⑦



★菊苗を配置します。
この時、なるべく根を均等に
広げます。

注意!

注意①
中心の茎が見えないくらいしっか
りと深く植付け、根はりを促し、成長
した時のグラつきを防止します。

注意②

菊の種類ラベルを側に置いておきましょう。他のものと混ぜてしま
うと種類がわからなくなります。

⑧



ポイント!

★残りの用土を、鉢のふちまでいっぱいに入れます。
※手で押し付けず、ふんわり入れると水はけがよくなります。

⑨



★鉢のふちに沿って、指で用土を押し
付け、2センチ程度のウォータースペ
ースを作ります。

重要!

⑩



ウォータースペースが出来上がりました。
ラベルをつけて、植付けは完了です。

※ウォータースペースは、水やり時の用土
の流出を防ぎ、一時的に水を貯める事で
まんべんなく浸水させる事ができる重
要なスペースです。

⑪



植付け直後だけ、葉の部分にも水をかけながら、鉢底から水が染み出るまでたっぷりと与えます。

⑫ 植付け直後(10日~14日)の管理のポイント

置き場所

日陰~半日蔭で、極端な気象条件(台風のような強風、大雨、強い直射日光など)にさらされないところに置き、苗が活着した頃合いで、徐々に日の当たる場所に移動します。

また、地面に直置きは避け、すのこやレンガなどの上に置くと通気性も良くなり、害虫の侵入を防ぎます。また、近年の厳しい残暑による照り返しも緩和してくれます。

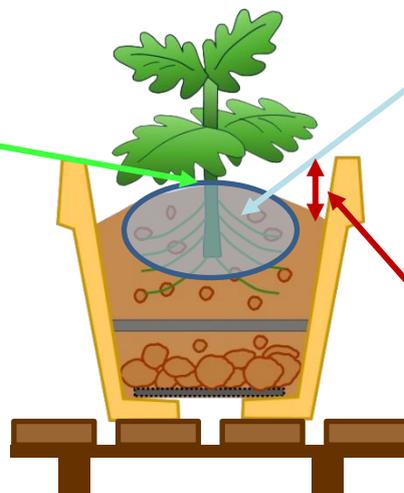
水やり

⑪の水やり後の2週間くらいは、鉢の大きさに対して、苗が小さすぎるので、鉢いっぱい水をあげると、多湿になり、根腐れしてしまいます。植付け直後に一度たっぷりと与えるので、2~3日は必要ありません。乾いているのを確認したら、根の周りにだけ水を与えます。その後は、成長にあわせて水の量を増やしていきます。

植付けのポイント

中心の茎が見えない程度に深く植える

地面への直置きは避けた方がよい



植付け後の2週間くらいは、根のあるところだけ、水をあげるイメージ。成長にあわせて水の量を増やしていく

2cm程度のウォータースペースを作る